

「原子力委員会の発足に際して……………」

(昭和三一、一、四)

一九五六年の年明けと共に、本原子力委員会が正式に発足し得たことは、まことに欣びに堪えません。世界で唯一つの原水爆被害国たる日本が、受難の洗礼を乗り越えて、原子力平和利用への積極的な国家活動を開始したことは、ひとり邦家の為ばかりでなく、世界的にも又大きな意義を持つものと確信します。

日本はその恐ろしさを身を以つて体験した国だけに、二度と再びかゝる惨禍を世界のいかなる人類にも及ぼしてはならないとゆう、固い悲願に立つております。われわれも又当然原子力基本法の定めるところに従い、総ての努力を平和利用の一点に集中して、いさゝかたりとも戦争の具に供するが如きことのないよう、誓いを新たにしているものであります。

人類がかつて想像することも出来なかつた巨大なエネルギーが、原子の破壊分裂による許りでなく、終には、その融合と反応によつても又生れ出るものであることを、われわれは知るに至りました。このことの意義は極めて深く且大なるものがあると思われます。われわれは単に科学の進歩の速さと偉大さに目を眩るばかりでなく、これによつて人間社会を改善し、世界の平和と繁栄のために尽すべき一層の責務を痛感するものであります。

御承知の通り、その国の生活文化の水準は、国民一人当りのエネルギーの消費量に匹敵すると云われます。その点アメリカを十とすれば、イギリスは四、日本は僅かに一強であり、アメリカの実に十分の一という惨めな状態にあります。これでは到底文化国家としての体面どころか、経済発展の将来性すらも危ぶまれるといわざるを得ません。そこで当然我が国電力界も今後の五カ年間に更に五百万キロワットの増強を目指し、その為に八千億円余の巨費を投じようとしているほどであります。

しかしそれだけで勿論こと足りるものではありません。われわれが水火力よりもより低廉で而もより効率のよい原子力発電を速かに実現して、我が国産業経済の興隆に資したいと念願している大きな理由もここにあります。米ソ両国では既にその実験に成功している前例もあり、われわれとしても、今後五カ年間に原子力発電の実現に成功し得ないようなことがあれば、それは当然われわれの怠慢としてあらゆる指弾を受ける覚悟に立つべきだと考えております。

しかも、繰つて日本を除くアジアの現状をみると、その生活水準はアメリカの十分の一どころか、実にその百五十分の一という比較すべくもない低位にあることを発見し、今更ながら愕然たる感に打たれざるを得ません。アジア十億の民衆が、今日依然としてかかる不平等な地位に放置されていること自体に、思想と政治の戦いの根源があり、そこに世界平和の脅威が伏在していることに、想いを致すべきであります。

従つて、今日、日本が原子力の平和利用に進んで乗出した以上、われわれは単に自国の利益の為ばかりでなく、かかるアジア全体の繁栄と平和の為に尽すべき、固き決意と敬虔なる祈りを以て前進すべきものと考えております。

勿論原子力によるエネルギーへの利用はその一面に過ぎず、それから同時に生ずるアイソトープの利用は、農業、医薬、工業の各般にわたつて、前者に勝るとも劣らぬ積極的な意義をもつております。われわれは即時役立つものから次々とその活用普及を図り、これを通じて亦国際協力に資して参りたい所存であります。

かくして実験研究の進むにつれて、可及的速かに自由アジア全体のエネルギー問題解決への話合いも進めてゆきたいと念願しております。

われわれは先ずオ一着手として、早急に実験原子炉を米国より導入し、進んで先進技術を取入れつつ、急ぎ我が国独自の自主的基盤を固めて、少くとも五年以内には、以上の理

想が実現の緒につき得るよう、全力を挙げて邁進せんとするものであります。
国民各位並びに友邦諸外国の心からなる理解と支持を乞う次才であります。

